

航空従事者技能証明学科試験出題範囲参考

航空通信士

この資料は、航空通信士に必要な知識を限定するものではなく、学科試験受験に際し学習の参考として使用するためのものである。また、学科試験の出題範囲を限定するものではない。

1 航空機構造

(1) 航空機材料

ア 材料の性質

概要

イ 航空機材料の種類

一般に使用される材料、金属・複合素材の特徴（疲れ、強さ）

(2) 航空機の構造

ア 機体の構造

概要、機体の一般構造、操縦装置、操縦翼面、風防、窓、ドア、非常脱出口、着陸装置

イ 荷重と強度

概要、主翼、胴体、安全率とフェイル・セイフデザイン

2 航空気象

(1) 大気の物理

ア 大気の基本

(ア) 大気

大気の組成、大気鉛直構造、国際標準大気

(イ) 温度

熱の伝わり方、地上気温の変化、上空の気温変化

(ウ) 気圧

気圧計の概要と気圧の単位、気圧と高さの関係、気圧系、高度計の指度、高度計規正方式と高度計誤差

(エ) 水分

水の相の変化と潜熱、水蒸気量の表現、湿度の変化

(オ) 安定度

乾燥及び湿潤断熱減率の意味、露点温度減率の意味、温位・相当温位の意味、断熱図の種類と概要、大気の状態曲線の意味、安定と不安定の判定、空気塊の上昇、ショワルター指数

イ 雲と霧

(ア) 雲の観測

雲の形、雲の量と高さ

(イ) 雲の形成

雲の発生と成長

(ウ) 霧の形成

霧の発生条件、霧の種類と特徴

(2) 大気の運動

ア 風

(ア) 風の観測

概要、風の通報

(イ) 風の吹く原因

空気に働く力、理論上の風

(ウ) 風の高度変化

摩擦層内の風、自由大気の意味、高層天気図の等高線と風の関係

(エ) 風系

季節風、高気圧と低気圧の風系、局地風

イ 気団

(ア) 気団の分類と性質

発現地による分類、移動先による分類、気団の変質

(イ) 日本に影響する気団

気団の種類と特性

ウ 前線

(ア) 前線の性質

前線の構造、前線発生と消滅時の特徴、前線を境にした気象要素の不連続

(イ) 前線の種類と気象状態

前線の種類とその構造及び天気分布の状況

(ウ) 日本付近の前線

季節毎に卓越する前線及び局地前線の構造と気象分布の状況、局地前線の概要

エ 高気圧と低気圧

(ア) 高気圧と低気圧に伴う風系

収束と発散の概念、鉛直流と雲発生及び消散の関係

(イ) 低気圧の種類

鉛直方向の温度構造による分類、その他の分類、温帯低気圧の一生

(ウ) 高気圧の種類

鉛直方向の温度構造による分類、その他の分類

(エ) 日本付近の気圧配置

日本に影響する高気圧、日本に影響する低気圧

オ 熱帯気象

(ア) 低緯度大気の特徴

モンスーン

(イ) 熱帯低気圧

熱帯低気圧の分類、熱帯低気圧の構造、台風の生涯と移動経路

(3) 高層気象と気象障害

ア 高層気象

(ア) 高層大気の構造と特徴

対流圏上部と成層圏下部の構造、圏界面の定義と種類

(イ) ジェット気流

ジェット気流の定義及び名称と特徴

イ 飛行に影響する気象障害

(ア) 乱気流

乱気流の意味、対流性の乱気流、山岳波、風のシャワーによる乱気流、人工的な乱気流

(イ) ウィンドシャワー

ウィンドシャワーの概念及び飛行への影響、低層の強風や地形によるウィンドシャワー

(ウ) 雷雲

雷雲の生涯、雷雲の種類、気団性雷雨の特徴、上昇及び下降気流生成の概要、鉛直流と乱気流の分布状況、ダウンバースト、初期突風とガストフロント、雹の生成条件、発雷の目安、雷雲域の飛行時における上層風と雷雲回避方向

(エ) 着氷

着氷の物理、着氷の種類、飛行中の着氷発生域、飛行への影響

(オ) 視程障害現象

視程及び視距離の測定、霧やミストによる視程障害、降雨の型による視程変化の特徴、大気塵象（煙霧、煙等）による視程変化の特徴、風塵による視程変化の特徴

(カ) 火山灰

火山灰の航空機への影響

(4) 気象情報

ア 気象通報

(ア) 気象の観測

観測時間の概要、目視観測と各種観測装置による観測の概要

(イ) 飛行場の気象情報

METAR と **SPECI**、**TAF**

(ウ) 空域の気象情報と予報

SIGMET

イ 天気図

(ア) 実況天気図の解析

地上天気図の読み方、高層天気図の天気図記号の意味、高層天気図の各等圧面天気図の特徴、高層天気図の降雪予想の判定、高層天気図の低気圧発達の有無の判定、高層天気図の湿域と雲域の関係、高層天気図の大気の安定度の判定、気象衛星の雲解析情報図の天気図記号の意味、レーダーエコー図の読み方

(イ) 予想天気図の利用

悪天予想図

3 空中航法

(1) 航法

ア 航法に関する一般知識

(ア) 航法の種類

概要、地文航法に関する知識、推測航法に関する知識、推測航法と他の航法との関係

(イ) 地球について

航法で用いられる用語、大圏・小圏・赤道・平行圏・真子午線等の定義、太陽時・地方時・経度時・協定世界時の定義

(ウ) 航法要素

航跡の定義、針路の定義、距離に関する知識、速度に関する知識、大圏航路と航程線航路の定義とその特徴、時間に関する知識、経度差と時差の関係

(エ) 高度について

気圧高度・計器高度・真高度・密度高度と気温の関係、アルティメター・セッティングの意味について

(オ) 航空図の投影法

各投影法の特徴

(カ) 風力三角形に関する知識

風力三角形の構成要素について、偏流角と Heading と Track の関係について、偏流角に影響を与える要素について、偏流修正角と Course と Heading の関係について、偏流修正角に影響を与える要素について、偏流角と偏流修正角の関係について

(キ) 航法計算

簡易的な航法計算

(ク) 飛行計画書

飛行計画書の記入要領

(ケ) 航空図

区分航空図・航空路図の記号

イ 航法計画書の作成

(ア) 経路の測定に関する知識

地球の座標系、航空路図の記号、基準線、地点プロット法、航路と方位の測定法

(イ) 距離の測定に必要な知識

距離測定法、プロッター距離目盛と航空図との整合性について、航法に使用する距離単位に関する知識

(ウ) 方位変換に必要な知識

各方位の定義、偏差の定義、真方位と磁方位の関係について、自差の定義、磁方位と羅方位の関係について、自差表の意味と利用法について、相対方位と針路と方位の関係について

(エ) 所要時間の計算に必要な知識

時間と距離と速度の関係、TAS と GS と風の関係について、速度単位と距離単位の整合性について

- (オ) 燃料計算に必要な知識
 - 燃料消費率の定義、燃料に用いる単位について、航空機用ガソリンの比重について、飛行に必要な燃料の種類について、航空機の区分と燃料の量について
- (カ) 会合
 - 会合の必要条件と衝突方位との関係について
- ウ 航法の実施
 - (ア) 機位の確認
 - 地文航法による機位の確認、推測航法による機位の確認、推測航法と他の航法との関係
 - (イ) 針路の決定
 - 針路の決定及び修正方法
 - (ウ) 到達予定時刻の修正
 - 概要
 - (エ) 航空保安無線施設等に関する知識
 - 航法保安無線施設等の知識とその計器表示、磁気コンパスの使用法、全地球的航法衛星システム（GNSS）の利用法、RAIM 予測
- (2) 運航方式に関する一般知識
 - ア 有視界飛行方式による航行
 - 管制圏の飛行、情報圏の飛行、目視位置通報点（ENR1.2-2）、有視界飛行方式における位置通報
 - イ 空域
 - 空域の分類（ENR 1.4）
 - ウ 航空情報等
 - 航空情報、AIP 等
- (3) 人間の能力及び限界に関する一般知識
 - ア 環境と人間の能力
 - (ア) 低酸素症等
 - 低酸素症の概要、耳閉塞の概要
 - (イ) 過呼吸
 - 概要
 - (ウ) 一酸化炭素中毒
 - 概要
 - (エ) 減圧症
 - 概要
 - (オ) 加速度
 - 加速度（G）とは、加速度が身体に及ぼす影響
 - (カ) 視覚
 - 目のしくみ、目標物のみかた、暗順応と明順応、視力への影響、見張りとは空中衝突の予防

(キ) 聴覚

聴覚と脳の役割

イ 空間識／空間識失調

(ア) 空間識

概要、空間識を構成するもの

(イ) 空間識失調の分類

概要、傾斜錯覚、着陸失敗をもたらす錯覚、回転角速度・重力加速度・直線加速度によるもの、平衡感覚によるもの

(ウ) 空間識失調の危険性

感覚機能が正常なるが故に発生すること、空間識失調からの脱却が困難であること、空間識を喪失しているという自覚が無いこと、時には理性を失い混乱や恐怖に陥ることもあるということ、空間識失調に陥りやすい時期（夜間飛行）

(エ) 空間識失調への対処と回復

概要

(オ) 飛行への適合性

関与する心身の状態と健康管理、インキャパシテーション

ウ 基礎的な航空心理学

(ア) 人間が情報処理する過程

概要、注意と警戒、認識、記憶、反応の選択

(イ) ヒューマンエラー

ヒューマンエラーの理論とモデル、発生の原因

(ウ) 意思の決定

概要

(エ) コックピット・マネージメント

エラーの回避と処理、安全に対する注意、会話、エラーマネージメント

(オ) 人間性

人間性と態度

(カ) TEM

用語の定義、理論とモデル

(キ) 医薬品の取り扱い

麻酔薬

4 航空通信

(1) 航空交通業務

ア 航空交通業務概論

(ア) 航空交通業務の目的

概要

(イ) 航空交通業務の種類

概要

- (ウ) 飛行情報区
飛行情報区内で提供される業務、福岡 FIR の範囲
- (エ) 航空交通業務
管制業務、飛行情報業務、警急業務、飛行援助機関とその業務
- イ 搜索救難業務
 - (ア) 搜索救難業務
概要、日本の搜索救難組織及び SAR
 - (イ) 救難の実施手続き
概要、事故現場において機長のとるべき措置、遭難通信を受信した機長のとるべき措置
 - (ウ) 搜索救難信号
概要
 - (エ) 緊急機の行動
遭難通信、緊急通信、通信機故障時の措置、緊急三角旋回飛行
- ウ 航空情報業務
 - (ア) 航空情報業務
概要、航空情報として提供される事項の種類
 - (イ) 略号及び記号
航空情報用略号 (AIP 収録の主な略号の意味)
 - (ウ) 総合航空情報パッケージ
パッケージの構成、AIP に収録される情報の性質、AIP. AMDT に収録される情報の性質、AIP. SUP に収録される情報の性質、NOTAM により通知される情報の性質、AIC に収録される情報の性質、エアラック
- エ 飛行計画
 - (ア) 飛行計画の通報
飛行計画、飛行計画の通報 (提出) の方法
 - (イ) 飛行計画記入要領
一般事項、各項の記入要領
- オ 航空通信
 - (ア) 航空移動業務
航空移動業務の定義、航空局の要件、無線局の運用に係る規則
 - (イ) 航空保安無線施設
航空保安無線施設の特徴
- (2) 管制業務
 - ア クリアランスを受けた操縦士の責任 (AIP)
 - (ア) クリアランス
概要
 - (イ) 復唱要領
復唱要領 (ENR 1.5-8)

(ウ) クリアランスの遵守時期

原則＝即時実行、**Immediately/expedite** の指示の意義

イ 管制業務一般

(ア) 管制業務

管制業務の種類と概要

(イ) 管制機関

管制機関の種類と概要

(ウ) 用語の定義

運航に関する用語の定義

(エ) 管制業務の通則

業務の優先順位、業務に使用される時間の種類 (UTC)、航空機に対する情報の提供、迅速な行動を必要とする指示、許可・不許可に係る用語

(オ) 気象情報

通報される雲高・視程・風向風速の値 (気象機関からの提供値)

(カ) 高度計規正值

ローカル QNH とエリア QNH の区分、QNH が提供される場合

(キ) 電話通信

数の送信の方法、無線呼出符号、通信に使用する用語の意義、通信の設定、試験通信の方法

ウ 飛行場管制

(ア) 通則

飛行場管制業務の内容と担当管制席の区分、使用滑走路の指定

(イ) 管制許可等

着陸許可、離陸許可、計器気象状態の場合の措置、管制圏の通過

(ウ) 管制間隔

同一滑走路の間隔、インターセクションテイクオフ時の間隔

(エ) 地上滑走及び出発

地上滑走指示及び許可、離陸準備完了の通報、滑走路上／滑走路外での待機

(オ) 到着機

到着機に対する情報及び指示、場周経路、VFR機の空中待機、着陸後の指示

(カ) 可視信号

指向信号、航空機の応答

(キ) 飛行場管制所による情報の提供

交通情報、飛行場の状態に関する情報、航空機の異常状態に関する情報

エ 飛行管制

(ア) 管制承認

VMCを維持して行う飛行、制限区域内の飛行

(イ) 特別有視界飛行方式

概要

- (ウ) 巡航機
 - 位置通報の内容（構成と項目）
- オ レーダー管制
 - (ア) 二次レーダー
 - トランスポンダーの操作、VFRにより飛行する場合のコードの選定、不法妨害／無線電話故障／緊急事態の航空機のコードの選定、トランスポンダー型式の通報、飛行中の高度自動通報装置の作動義務
 - (イ) レーダー識別
 - 識別に係る通報、レーダー業務の終了
 - (ウ) レーダー誘導
 - VFR機／SVFR機に対するレーダー誘導
 - (エ) 補足業務
 - レーダー交通情報、交通情報への応答、トラフィック解消に係る通報に使用される用語
 - (オ) TCA アドバイザリー業務（AIP）
 - 業務内容、対象航空機、通信設定、誘導、業務の終了、業務を受けて飛行中の航空機の責任
 - (カ) 飛行場アドバイザリー業務
 - 概要
 - (キ) 飛行場情報放送（ATIS）
 - 概要
 - (ク) 広域対空援助業務
 - 概要
- カ 後方乱気流関連（AIP）
 - (ア) 管制方式
 - 航空機の後方乱気流区分
 - (イ) 管制間隔
 - レーダーを用いない場合の最低間隔
 - (ウ) 注意情報の提供と操縦士の責任
 - 間隔の縮小を要求又はこれに同意した操縦士の責任
 - (エ) 後方乱気流を回避するための措置例
 - 概要
- キ 緊急機に対する管制
 - 航空機が管制上優先的に取り扱われる場合、交通制限が解除される場合、ミニマムフェューエルを通報した航空機の管制上の取り扱い
- ク その他 AIP/AIC に規定された事項
 - 総則、飛行情報区（クラス A, B, C, D, E）

5 航空法規

基本的に航空法及び航空法施行規則に関し出題されるが、関連の深い通達類及びAIPに関する知識についても出題される場合がある。

(1) 国際条約

国際民間航空条約（シカゴ条約）の概要

(2) 航空法及び航空法施行規則

ア 総則

総則、この法律の目的、定義

イ 登録

国籍の取得、登録の要件、新規登録、変更登録、移転登録、まつ消登録

ウ 航空機の安全性

耐空証明、申請、資格、用途の指定、運用限界等指定書、飛行規程、有効な耐空証明、耐空証明の有効期間、整備改造命令、耐空証明の効力の停止等、耐空証明の失効、航空機の整備又は改造、使用者の整備及び改造の義務

エ 航空従事者

航空従事者技能証明、技能証明書、資格、技能証明の要件、欠格事由等、業務範囲、試験の実施、技能証明の取消等、航空身体検査証明、計器飛行証明が必要な計器航法による飛行の距離及び時間

オ 航空路、空港等及び航空保安施設

空港等の設置基準、航空灯台の設置基準、飛行場灯火の設置基準、航空障害灯、昼間障害標識、禁止行為

カ 航空機の運航

航空日誌、航空機に備え付ける書類、航空機の航行の安全確保のための装置、救急用具、航空機の燃料、航空機の灯火、航空従事者の携帯する書類、アルコール又は薬物、身体障害、操縦者の見張り義務、機長の権限、出発前の確認、報告の義務、離着陸の場所、飛行禁止区域、最低安全高度、巡航高度、航空交通管制圏等における速度の制限、衝突予防等、進路権、間隔の維持、地上移動、空港等付近の航行方法、編隊飛行、粗暴な操縦の禁止、爆発物等の輸送禁止、物件の曳航、物件の投下、落下傘降下、曲技飛行等、操縦練習飛行等、計器飛行及び計器航法による飛行、計器気象状態における飛行、計器飛行方式による飛行、航空交通管制圏における飛行、民間訓練試験空域、航空交通の指示、航空交通情報の入手のための連絡、飛行計画及びその承認、到着の通知、情報の提供、航空機の航行の安全に影響を及ぼすおそれのある情報

以上